

令和5年7月21日

豊田市議会議長 木本 文也 様

環境福祉委員長 奥村 峰生



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、豊田市議会委員会条例第37条第1項の規定により、報告書を提出します。

記

- 1 派遣期間 令和5年7月11日（火）から同月13日（木）まで
- 2 派遣場所 11日（火）山口県山口市 クールチョイスの取組  
及び内容 12日（水）愛媛県西条市 わくわく健康ポイント事業  
13日（木）岡山県岡山市 AAAシティおかやま
- 3 派遣委員 委員長 奥村 峰生  
副委員長 近藤 厚司  
委員 小島 政直 根本 美春 板垣 清志 岩田 淳  
安藤 寿昭 酒井 齊
- 4 報告内容 視察報告書のとおり
- 5 随行者 上田 研 小杉 哲史

視察報告書【1】

|                  |   |     |       |
|------------------|---|-----|-------|
| 委員会名             | 環境福祉委員会   | 委員名 | 奥村 峰生 |
| 視察日時             | 令和5年7月11日（火）<br>午後1時45分 ～ 午後3時15分   |     |       |
| 視察先・概要           | 山口県山口市 人口：190,663人（R5.3.31現在） 面積：1,023.23km <sup>2</sup>  |     |       |
| 視察内容             | 【クールチョイスの取組】  |     |       |
| 選定理由             | 山口市は地球温暖化対策として「COOL CHOICE」宣言のもと、11の取組を定め、またロゴやキャラクターを活用し、私たちの将来は市民一人ひとりが「選ぶ」ものとして推進している。これらの取組は、本市が進める環境配慮活動の取組の推進を図るうえで、参考となると考えられるため。  |     |       |
| 豊田市の現状と課題        | 豊田市は、2050年のゼロカーボンシティの実現を目指し、官民で様々な取組を行っているが、取組を市民へ浸透させ、今後その動きをさらに加速させ、進めていく必要がある。   |     |       |
| 視察概要             | <p>地球温暖化対策に取り組む姿勢を示すとともに、取組の更なる推進、機運醸成を図るために行った「COOL CHOICE」宣言と、その後のCOOL CHOICEへの取組について視察した。</p> <p>平成30年から本格的な取組を開始し、令和元年にシンボルマークと共に、キャラクターの「遊ぶ～」を製作。誰にでも分かりやすい11の取組を選定し、市民に身近な環境への取組を提案している。</p> <p>令和3年からは更なる周知に向け、プロポーザルによる業務委託を行い、民間の広報力を生かした機運醸成を図っている。</p>         |     |       |
| 評価とその理由          | <p>（1）11の取組</p> <p>具体的な選定理由は明確ではなかったが、山口市の課題である「ガソリン消費量が多い」という点に着目し、車の運転に関する取組が3点あった。市の課題について統計を含めて客観的に整理したうえで市民行動への促しにつなげていた。</p> <p>（2）民間活力との協働</p> <p>環境への取組という成果が見えにくい分野において、重要な点は広報であるとの方針を打ち出した。そのために、とにかく市民の目に留まる広報を進める、またその分野では民間ノウハウの活用が有効である、と民間との協働を進めてきた。</p> |     |       |
| 本市に反映できること       | <p>本市が進めている12の行動変容についても、その提案が本市の課題解決につながるメッセージと共に発信できると市民の当事者意識を醸成できる。</p> <p>また、民間活力との協働については、行政の得意不得意を理解し、民間との協働につなげることで裾野の広い発信につなげることが出来る。</p>   |     |       |
| その他<br>(意見・課題など) | 市民の環境への意識醸成に広報が有効とはいえ、どの程度の財源を確保するのが議論が必要。担当課は手応えを感じていたが、初年度900万円、その後500万円程度の財源を要しており、実績への客観的評価が難しいことは課題である。  |     |       |

視察報告書【2】

|                  |   |     |       |
|------------------|---|-----|-------|
| 委員会名             | 環境福祉委員会   | 委員名 | 奥村 峰生 |
| 視察日時             | 令和5年7月12日(水)<br>午後1時30分～午後3時  |     |       |
| 視察先・概要           | 愛媛県西条市 人口：108,025人 (R5.3.31現在) 面積：510.04km <sup>2</sup>   |     |       |
| 視察内容             | 【わくわく健康ポイント事業】  |     |       |
| 選定理由             | 西条市が取り組んでいるわくわく健康ポイント事業は、民間事業者と共働で市民の健康づくりを進めていく事業であり、本市における地域主体・市民主体の健康づくりの取組のさらなる推進を図るうえで、参考となると考えられるため。  |     |       |
| 豊田市の現状と課題        | 豊田市は、とよた健康マイレージなど、きらきらウェルネス地域推進事業を始めとした地域における市民に寄り添った健康づくりの取組を進めているが、その取組をさらに加速させ、健康寿命の延伸を図っていく必要がある。   |     |       |
| 視察概要             | 健康寿命の延伸に向けて、運動に無関心な層を主なターゲットに、運動等に取り組むきっかけづくりと将来の医療費削減を企図し、わくわく健康ポイント事業を視察した。<br>プロポーザルの結果、業務委託先としてNTTビジネスソリューションズ(株)四国支店、利用システムは(株)タニタヘルスリンク。平成30年から始まった本事業は、年間650名程度の登録となっている。  |     |       |
| 評価とその理由          | (1) 利用システム：タニタヘルスリンク<br>本事業を動機付けに位置付け、事業卒業後のフォローを考えた際、運動に限定せず食事・休息など様々な面でサポートがあるタニタのシステムが有効と考え、採択された。<br>(2) 一人当たり事業参加期間の設定<br>個人にインセンティブをつける事業、かつ主たるターゲットが無関心層であるため、運動に関心の高い層の利用者を想定した際にどのように事業構築するのか課題と感じたが、期間を設けることで、限られた財源で常に新たな利用を増やす仕組みとしている。 |     |       |
| 本市に反映できること       | タニタヘルスリンクと連動したポイント事業の予算は、700人/年で1,500～2,000万円/年(初年度3,000万円)であるが、内訳は職員人件費250万円、ポイント付与280万円程度(市内飲食店で消費)である。自治体SDGsモデル事業の一環として地方創生交付金を活用している。利用者の7割は2,000円の自己負担に対し2,000ポイントを超え平均4,073ポイントの還元を受けているが、3割は2,000ポイント未満であり、無関心層への動機付けという目的の一役を担っている。        |     |       |
| その他<br>(意見・課題など) | 豊田市においてもポイント事業を県事業に沿って行っているもののその利用は限定的であり、アピール不足かもしれない。西条市においても日頃運動をしている層の利用が一段落しつつある中で、DMの活用などアウトリーチを進めているが、本来のターゲットにいかに関知を図るか課題である。   |     |       |

視察報告書【3】

|                  |  |     |       |
|------------------|--|-----|-------|
| 委員会名             | 環境福祉委員会  | 委員名 | 奥村 峰生 |
| 視察日時             | 令和5年7月13日（木）<br>午前9時30分 ～ 午前11時  |     |       |
| 視察先・概要           | 岡山県岡山市 人口：708,155人（R5.3.31現在） 面積：789.95km <sup>2</sup>   |     |       |
| 視察内容             | 【AAAシティおかやま】   |     |       |
| 選定理由             | 岡山市が進めるAAAシティおかやまは、在宅介護に特化した総合特区を設定して、デイサービス改善インセンティブ事業、訪問介護インセンティブ事業を始めとした、先進的な取組を進めている。このことは、本市の在宅介護施策の充実や高齢者の活躍の推進に、参考になるものと考えられるため。  |     |       |
| 豊田市の現状と課題        | 豊田市は、第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に基づき、「安心して自分らしく生きられる支え合いのまちづくり」を目指しているが、重層的支援体制の推進を始めとした様々な施策を進めていく必要がある。  |     |       |
| 視察概要             | 平成25年から取組む岡山型持続可能な社会経済モデル構築総合特区（AAA(Ageless・Active・Advanced)シティ岡山）のこれまでの取組と、令和5年から始まった第Ⅲ期の方向性について視察を行った。<br>これまでの9つの分野において、国との協議も経ながら事業を進め、実際に法令や運用の改正につながったものもある。   |     |       |
| 評価とその理由          | 「在宅介護」に特化した取組の強化として、高齢者10万人に対する在宅系介護事業所の数はトップクラスだが、在宅介護だけが極端に少ない市の現状を把握し、「在宅介護」に焦点を当て第Ⅰ期を「身体の自立」、第Ⅱ期を「心の自立」として、それぞれに必要な改革にチャレンジしてきた。   |     |       |
| 本市に反映できること       | 訪問介護インセンティブ事業（74万円/年、介護保険特別会計）については、訪問介護においてヘルパーに専門家（理学療法士や管理栄養士、歯科衛生士など）が同伴し、助言を行っている。アウトカム評価で利用者の維持改善状況を点数化し、上位10事業所に奨励金（10万円）と表彰状を交付している。<br>高齢者活躍推進事業（154万円/年、一般会計）は、デイサービスに通所している利用者で意欲と能力のある人を対象に、暮らし慣れた地域で「ハタラク」機会を創出している。協力事業所と介護事業所の連携を行政が担うことで、利用者や介護事業所にとってもメリットのある取組となっている。<br>独自の取組強化として、様々な取組を進めているが、その発想は現場のケアマネジャーからのアドバイスとのことだった。介護サービス事業所連絡協議会との意見交換から市独自の取組を推進すべきである。 |     |       |
| その他<br>（意見・課題など） | 総合特区に認定されていることもあるが、福祉に関わる人たちの「地方から国を動かす」「ルールがあるからといって出来ないことはない」という意識の高さを感じた。   |     |       |

## 視察状況写真

1日目 7月11日(火) 山口県山口市



2日目 7月12日(水) 愛媛県西条市



3日目 7月13日(木) 岡山県岡山市

